

久留米市美術館 2025年度展覧会のご案内

響きあう絵画 宮城県美術館コレクション

2025年2月8日(土)― 5月11日(日)

リニューアルオープンに向けて改修工事中の宮城県美術館から
ハイライトとなる74点の絵画コレクションが丸ごと久留米へ。
松本竣介や海老原喜之助、カンディンスキーなど必見の
ラインナップです。



左：長谷川溝二郎《猫》1966年

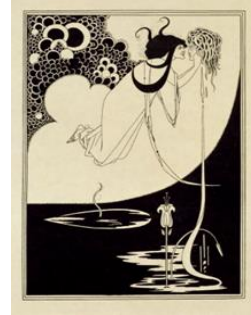


右：海老原喜之助《ポアソニエール》1935年
洲之内コレクション 宮城県美術館

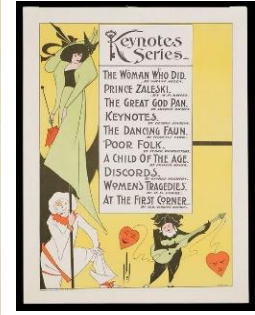
異端の奇才 ビアズリー展

2025年5月24日(土)― 8月31日(日)

蝋燭の光をたよりに、精妙な線と大胆な白黒の色面からなる洗練
された作品で19世紀末の欧米を騒然とさせたオーブリー・ビアズリー
(1872-1898)。ヴィクトリア・アンド・ アルバート博物館(V&A)の
協力により、代表作である雑誌『ステューディオ』に掲載された
連作「サロメ」をはじめ、初期から晩年までの挿絵、直筆の素描、
ポスターなど約200点を紹介します。



左：《クライマックス》1893年(原画)/1907年(印刷)



右：《「キーノート叢書」の宣伝ポスター》1893年(原画)/1966年(復刊)
ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館

橋口五葉のデザイン世界

2025年9月13日(土)― 10月26日(日)

鹿児島に生まれた橋口五葉(1881-1921)は、わが国の書籍装幀や
新板画の先駆者として知られます。夏目漱石の『吾輩ハ猫デアル』は
その代表作。本展では漱石本、鏡花本といった貴重書のほか、原画から
新板画まで約200点を通して、五葉のグラフィックデザインに注目します。



橋口五葉による夏目漱石著作の装幀 撮影：上野則宏

ちくごist 深よみ 古賀春江

2025年11月8日(土)― 2026年1月18日(日)

久留米生まれの古賀春江(1895-1933)の作品と資料を読み解くことで、
彼の素顔と作品の魅力に迫ります。アーティゾン美術館と久留米市美術館の
所蔵作品を中心に構成します。約180点を展示予定。



古賀春江《牛を焚く》1927年 個人蔵

久留米市美術館 開館10周年記念展

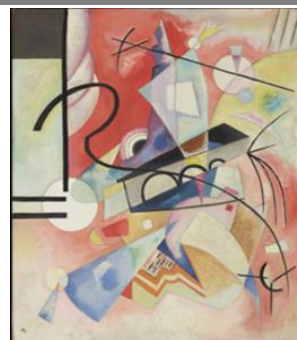
美の新地平―石橋財団アーティゾン美術館のいま

2026年2月14日(土)― 5月24日(日)

久留米市美術館の開館10周年を記念し、3000点を超える
石橋財団コレクションの中から、新収蔵作品を中心に、
アーティゾン美術館の「いま」を伝える作品約80点を紹介します。

左：ヴァシリー・カンディンスキー 《自らが輝く》1924年

右：藤島武二《東洋振り》1924年
石橋財団アーティゾン美術館



※都合により会期等変更になる場合がありますので予めご了承ください。

※入場料など詳細は久留米市美術館公式ホームページにて随時お知らせします。



久留米市美術館ホームページ

石橋正二郎記念館は、リニューアル工事の為下記期間は休館します。ご理解の程、お願い申し上げます。

休館期間 2025年8月1日(金)―2026年2月13日(金)